

記念行事は42年夏

高間

局長を理事に選任

常議員会

長は三副会長（委員）を設け、記念行事として物故者慰霊法要、式典、祝賀会、文化講演会、経済功労者表彰、議員・職員の勤続表彰、記念出版はか予算（大枠百五十万円など）を決めたとの報告を了承③港まつり協賛行事について一倉茂委員

長、事務局からアンケートの結果を報告、委員会としては時期は八月上旬（土、日）を入れる。期間は五日間としたこと、また現在本所内にある協賛会も本来は市と中核となるべきであることとを市に強く要望することを決めたのでこれも併わせ

道南地方誘致へ

原子力発電所の建設

青函トンネル建設調査委員会と
委員会の合同委員会とは一
月二十日午前十時から本所
で開いた。一月十八日付北
海道新聞の報道によると北
電の原子力発電所建設計画
では道央地区とともに道南
地区もまたその建設候補地
とされてゐるところから道
南誘致の前提条件ともなる
べき諸問題について懇談意
見の交換を行なつた。

この結果、主なる意見と
しては、原子力発電が本格
化する昭和五十年ころまで
には当地方の企業電化を一
段と促進し電力消費量を道
央並みに増大せしめること
が第一要件であり、かりに
大半を道央に送電せざるを
えないようでは誘致の立地
条件として極めて不利な

記念行事検討

総務委員会で

第九回總務運営委員會は二月九日午前十時から本所で開催、本所七〇周年記念行事の実施期ならびに行事

協賛行事開期

強い八月上旬説

委員会は一月二十一日午前十時半から本会議所で開いた。倉茂委員長からさでに
行なった港まつりアンケート集計結果について発言の
あと①協賛行事の開催時期
②開催期間③協賛行事内容
などについて検討の結果、
時期については八月上旬
(土)日曜日をは

地元製品愛用
促進会発足へ

近く發起人会

地元製品愛用運動をも
と徹底させようと地元製品
愛用運動懇談会が二月

午後二時から本所で開かれた。市内の大手商社代表十数人のほか、浅山市商工部長、水間渡島支庁商工労働課長、本所から田中副会頭、山口経営合理化委員会委員長らが出席した。これまでも、全く消極的であつた地元製品のPR方法などについて検討する方法としては、地元製品に関する講習会、新聞広告を通して市民への訴え、駅の構内に地元品展示コーナーを設けるなど熱心な意見が出された。

なお二月二十日ごろには、地元製品愛用促進会(仮称)の発起人会を開く予定。

本所人事(二月十四日)

事務局員長

函館市主要小売物価

(12月15日現在)

函館商工會議所調査課

品	目	単位	本月価格	指数 35年平均100	前月比
総食料	平均 (190品目)		994.2	119.6	100.1
う	料 品 (90品目)		466.8	122.1	99.8
粉	るち米 (非配給)	1kg	125.0	141.2	
野	粉製品 (3品目)			131.0	100.0
	菜 (14品目)			141.5	104.0
	甘 し ょ	1kg	40.0	122.9	114.3
	ば れ い し ょ	〃	25.0	101.8	
	キ ャ ベ ツ	〃	20.0	66.8	
	ほ う れ ん 草	〃	55.0	103.0	64.3
	ね ぎ	〃	85.0	153.0	
	大 根	〃	45.0	153.7	
	玉 ね ぎ	〃	50.0	166.7	
	に ん じ ん	〃	45.0	120.4	
果	物 (9品目)			120.8	94.2
	み か ん	〃	120.0	121.3	96.0
	りん ご (国光)	〃	70.0	103.8	
鮮	魚 介 (12品目)			150.1	97.7
	ま ぐ ろ	100g	100.0	184.9	76.9
	い か	〃	10.0	175.7	76.9
	さ け	〃	40.0	95.6	114.3
乾	物 (5品目)			105.7	100.0
	煮 干 子	〃	35.0	132.6	
	干 の り	1帖(10枚)	200.0	132.4	
畜産	食 品 (9品目)			132.0	101.8
	牛 肉	100g	120.0	193.9	
	豚 肉	〃	75.0	127.8	107.1
	鶏 卵	〃	36.0	135.4	105.9
調	味 料 (8品目)			120.5	101.6
	し ょ う 油	1本	200.0	134.9	
	味 噌	1kg	110.0	154.1	
	砂 糖	〃	140.0	92.2	107.7

變動激しい年

40年小売物価

本会議所調査課調べによると昭和四〇年の函館小売物価総平均指数は、年間平均で一・九・三、これを昨年（平均）に比べると四・三%また基準時（昭和三五五一〇〇）に比べ一・九・三%とそれぞれ上昇を示している。

これを類別にみると昨年（平均）に比べ食料品が七・七%繊維品〇・二%建材家具〇・三%燃料〇・六%雑品三・九%の騰貴を示し

も変動の激しい食料品をみると全体で七・七％上昇しているが、最も値上がりしたものに野菜の三〇・二％をはじめ、穀類一六・八％、鮮魚八・九％などがある。

また変動の激しかった品目を前月に比較してみると一月は穀類が大幅に値上がりしたのをはじめ、入荷の悪かった野菜、果物も値上がり、全体で一・九％の上昇。二月に入り調味料のうちミソ、正油が原料高で値上がりしたが、野菜、果物の地元カコイ物が大量入荷で全体として〇・九％の下

不足で高騰し、機械、器具類の乗用車などの値上がりにより全体で〇・三％の騰貴。四月は石炭などの値上がりにより全体で一・二％のアップ。五月は野菜が少々上がっただけで大きな動きはなく全体で〇・一％の値上がり。六月には石炭が再び値上がりしたが、野菜、果物の値下がり激しく全体として一・二％の下落。七月も畜産食品の牛肉および調味料のソースが値上がりしたが、野菜、鮮魚の値下がりにより全体として〇・二％の下落。八月は小豆

にして〇・五％の騰貴。九月に入り鮮魚類および木炭、マキ等の値上がりで全体として〇・三％の騰貴。十月は畜産食品中のタマゴが値上がりしたが、穀類および鮮魚の値下がり全体として〇・八％の下落。十一月は乗用車と新聞等の値上がりで全体として〇・七％アップ。十二月に入り畜産品の豚肉、鶏肉、タマゴ等が値上がりし、反対に果物、鮮魚が値下がりしたため全体としてはほぼ横ばいになったが、一年を通して当年は変動の激しい年であったといえよう。

昭和40年函館主要小売物価指数および推移

品目別 年月	総平均	食料品	穀類	精製 粉製品	野菜	果物	鮮魚	乾物	畜産 食品	調味料	加工 食品	菓子	繊維品
39年平均	114.4	114.9	116.2	131.0	140.6	132.6	143.0	116.3	123.3	118.6	133.7	107.8	124.7
40年1月	119.6	126.3	135.0	131.0	198.1	126.2	197.3	113.7	123.1	117.3	133.9	110.8	123.3
2月	118.5	123.2	135.0	131.0	183.3	115.4	153.8	121.3	122.7	120.7	133.9	110.8	124.7
3月	118.9	123.6	135.3	131.0	217.5	139.0	134.4	121.3	122.7	120.7	133.9	110.8	124.8
4月	120.3	126.2	136.1	131.0	222.8	139.9	170.8	121.3	122.7	118.1	133.9	108.1	124.8
5月	120.4	126.5	136.1	131.0	261.1	103.4	176.4	121.3	122.7	118.1	133.9	108.1	124.8
6月	118.9	122.7	136.1	131.0	202.0	120.5	140.6	121.3	122.7	118.1	133.9	108.1	124.8
7月	118.7	122.4	135.7	131.0	190.6	125.7	135.5	121.3	128.8	118.6	133.9	108.1	124.8
8月	119.3	124.0	136.1	131.0	157.5	184.4	142.5	121.3	128.8	118.6	133.9	108.1	124.8
9月	119.6	124.7	136.1	131.0	128.2	147.4	180.1	121.3	128.8	118.6	133.9	108.1	124.8
10月	118.7	122.1	135.6	131.0	158.5	147.5	133.2	121.3	129.7	118.6	146.0	108.1	124.9
11月	119.5	122.3	135.6	131.0	136.1	128.2	153.6	105.7	129.7	118.6	136.2	108.1	126.6
12月	119.6	122.1	135.6	131.0	141.5	120.8	150.1	105.7	132.0	120.5	136.2	108.1	126.7
年平均	119.3	123.8	135.7	131.0	183.1	133.2	155.7	118.1	126.2	118.9	135.3	108.8	125.0

会長に宮崎三善氏

函館振興會
陣容を一新再発足

昭和十一年
函館貿易振興会臨時總會
は一月十四日午前十一時から本會議所で開かれた。本
会は昭和三十三年ころ創立
されたが三十六年ころから
会の活動は全く休止の状態
にあった。しかし最近、沿
岸貿易促進のムードに刺激
されて、業界界の間に本会
の再建論がようやく高まっ
てきて、新たに役員改選を
規約改正などにより陣容を
一新し再発足しようとする
總會を開いたもの。事務局
から創立以来の経過報告の
あと議案①規約改正案(副
会長の増員、会員の範囲拡
大その他)を承認②役員
の選出(会長―宮崎三善函館
製網船具株式会社、副会長―
田中誠一郎第二物産株式
社長、同近江政太郎函館埠頭
倉庫株式会社、同阿部文男北
海道輸出入協同理事長の選
出は正副会長に一人③顧問
の委嘱(伊藤日銀函館支店
長、碓函館税関長、吉谷
函館市長、渡辺本會議所会
頭、能登渡島支庁長、山田
松山支庁長の七氏を委嘱)
④今後の運営方針(事業計
画一、地元輸出産業の育成
振興二、貿易関係諸機関の
整備拡充三、各国領事館の
誘致運動四、ハバロフスク
見本市の出品および視察に
対する協力五、中国その他
に対する経済視察団の派遣
についての協力六、ナホト
カ航路の函館港寄港実現
促進七、貯木場の拡充整備
八、貿易に関する調査研究
その他および収支予算)を
決め午後一時四十分散会し
た。同会では貿易関係業者
はもちろん、同会の趣旨賛
同者は誰でも多数の入会を
望んでいる。臨時總會出席
者は次のとおり。
第二物産輸函館埠頭倉庫
株式会社北海道輸出入函館製網
船具株式会社商事株式会社木
材工業所、辻木材株式会社
産物北海道水産交易協同函館
いか針販売組合(各々のく
にや、日本銀行函館支店、函
館木材協会、函館製材協同
組合、長内青果、北海興業函館
民芸研究所、函館特産食品

工業協小熊本産(株)ウロコ
製作所、聯合紙器(株)美鈴商
事(株)日本通運(株) 能登商
店、北海道パーケツト(株)日
ソ協会函館支部、函館運送
(株)北海道ブライウッド(株)
はなびしホテル。

人の使い方

女性とおしゃべり

女性のおしゃべりは誰しも認めるところであるが、女性はどうしておしゃべりなのであるうか。ある人はその理由を女性は子供を育て、子供に言葉を教えないければならぬからおしゃべりなのだといっている。

あるいはそうかもしれないが、それよりも女性が感情的に繊細なことの方が大きな理由ではないか。人間は感情がたかぶるとその感情をおしゃべりとかハツツリとかの方法で外にき出し感情の安定化はかるものであるが、性は感情が繊細な感情の安定を欠き易いので、必然的に安定を得るためにはおしゃべりを多くせざるを得ないと考えられるからである。また女性はおしゃべりであるが、これも誰しも認めるところであるが、このおしゃべりというのは、自分から出ていくのではなく、積極的に働かせるものではなく他人がきかすのを認めてもらいたいという受身の型で人に認められようという方法である。この人に認めてもらいたいという欲望は男、女ともある欲望なのであるが、これからいえるところ

女性とおしゃべり

れ、虚栄心などは女性が依頼心が強いとか、従順であるとかと一緒に女性が受動的であるという特質から出ていることと考えられる。こうして考えていくと、女性の特質といわれているものは今まで随分多くあげられてはいるが、結局はいくつかの限られた基本的な特質が、いろいろ形を変えてでてきているにすぎないようである。こうした考えで、個々の人の特質を考えてみても、やはり同じことがいえるように思う。たとえば、決断力において、命令に従順であるといった人をみてみると大体は仕事が変わることを好まないとか単独で作業するよりも集団で作業することを好むとかいったことがみられる。これなどは失敗をおそれるというか保守的であるといった基本的な特質が基礎となつてこうした一連の行動がみられるのではないだろうかと思う。このような考えに立つて人の個性とか特質といったものを考えようと人を理解するのをもずっと楽になり、人を使い易くなるので一つ試してみることをおすすめする。

(金原所ニエースから)

新入会の商社
(2月16日現在)

▽升天町二四——平田紡
 績(函)館工場▽末広町二一
 一五(函)館海運(株)▽大町一
 二——三小(熊)水産(株)▽豊川町
 一〇——二四(公)能登商店▽大
 手町六八(公)きのこや▽
 末広町一五——三北海道水産
 物交易協同組合▽末広町一
 七——一四(函)館製鋼(株)具(株)▽
 青柳町一五——一八北洋物産
 函(公)館(公)一五——一五(函)館
 産(株)▽中島町二三北海興業
 (株)▽宮前町四〇(株)渡島木材
 工業所▽北浜町一五(函)山不
 二(函)館水産加工所▽若松町
 三七——二三(函)館木材問屋
 協同組合▽高盛町一三(道)南
 六(株)▽上磯町七重(浜)二九
 三北海道ブライウッド(株)函
 館工場▽北浜町八八金丸と
 きわ食品(株)▽大手町一二
 四(函)館、小針製材組合▽末
 広町一五——一八北洋物産
 支社▽大手町三二——北海
 (株)▽大町七——二半田機械
 器具(株)▽白鳥町八〇第一硝
 子工業(株)▽柏木町四七(函)館
 民芸研究所▽宮前町四〇(道)
 南漁業資材(株)▽末広町一六
 一六日本漁網船具(株)▽豊
 川町七——二九三井物産(株)函
 館出張所▽万代町一三五(全)
 木村食品(株)▽大町八二〇
 道南海運(株)▽豊川町二七——
 六(函)館特産食品工業協▽浅

また女性はおしゃれだ
いう。これも誰しも認め
てゐるものであるが、このおし
れというものは、自分から
めてくれと積極的に働き
けるものではなく他人が
をためて、認めてもら
うという受身の型で人に認
められようという方法であ
る。この人に認めてもら
いたいという欲望は男、女
もある欲望なのであるが
これから生ずるという女性

これなどは失敗をおそれる
というか保守的であるとい
つた基本的な特質が基礎と
なつてこうした一連の行動
がみられるのではないだろ
うかと思う。このような考
えに立つて人の個性とか特
質といつたものを考えたと
人を理解するのまづつと楽
になり、人を使い易くなる
ので一つ試めしめてみるこ
とをおすすめする。

(会館所ニユースから)

報 會 所 議 會 工 商 館 函

港

港は往古津ともいっていた。津輕海峡の津輕の語源は、吉田東伍博士によると往古アイヌが和人と交易するため港を借りたが、その津というが地名になったのは、津輕半島の十三港あたりと考えられるが、借りたのは、函館のアイヌである。続日本紀によると、いまから千二百五十一年前の元正天皇の御代、雪籠元年十月に蝦夷貢貢の雪籠元年十

荷による若狭の大船（一
 隻）が毎年三艘内陸に
 て運んでいた。それ以外
 で、一般の交易船も沢山来
 たり、函館は非常に賑わっ
 た。當時すでに函館港は「巴
 港」、網知らるるの港」と呼
 ばれ良港として知られてい
 った。入港した船は海岸（当
 時は大黒町）に立並んでい
 た問屋の柱に纜を繫げばそ
 れでよく、船の混んだとき
 は碇綱も不要、そのまま
 放っていても安全に泊れる
 といわれていたのである。

内を自轉するほどの重要な地になつた。とにかく何といつても函館港は、北日本随一の天然の良港なので、船形の小さい、動力機關の進歩しなかつた時代には、本道沿岸を航運する船舶は函館港を足懸りとするよりはかはなかつた。それがため函館は全道海産物の集散市場となり、全道漁業の策源地にもなつて本道一の繁華な豊かな都市となつたのである。

一方、極東の植民地競争に大童であつた欧米列国はこの北日本の天然の良港を見のがす筈はなかつた。そ

つていた函館はそれを見ていた。世の科学、工業、術經濟機構などが進歩いものならば、函館の進歩も繁榮股脈はそのまゝでも続いたろう。が、二世紀は人類あつて以来の急速な進歩發達時代であつた。船舶の形はどんどん七きくなり、動力機關は進歩して、どんな荒海をも自由に安全に長く航海ができ港は地勢などに関係なく造らうとせば、どんな海岸にでも望み通りな人工の良港を造れるようになった。そして經濟機構も進み、中間市

田中誠一郎



場などに頼らず生産地から消費地へ直接送荷する時代となり、また国際情勢も激変した。ということになって函館などには一向関係なく、本州、本道の各都市はその波に乗り、急速に進歩発展して行った。

繁栄から斜陽へ

そして天然の良港にすつかり甘え、これさえ抱えていれば黙っていても千船百船が輻輳し土地も繁栄するものと情眼を貪っていた函館は、いつの間にか本道一の人口がガタンと第三位に転落し、開港百年を七年

起死回生も可能

た貿易港が第四十三位になつて成り下がり、使らに斜陽の非勢が募るのをかこつ身になつてしまつた。大正元年に着手した港灣防波堤を五十四年も経つて未だに完成させず、オハグロドブのような良港の成れの果てを抱え二〇万トンのタンカーができやうという世の中に、一万ト級の船舶を接岸させる岸壁があると自慢しているが、その埠頭ではトラクタ一台が満足に回転できないという有様では、老化斜陽するなといつても、いう方がかえつて無理である。

このままで行けば、青函トンネルは開通し、航空機は発達し、自動車や道路も進歩するにつれ、函館の衰勢は加速速度を示す一方であらう。

るが幸いにして函館は巴港であり、いまの港の外には、広い大きな懷ろを持たずに、これに最新式の港づくりをすれば、比較的安全な經費で、仮令二〇万ト級のタンカーが幾艘やつて来ても、易易しく収容できる世界的な施設ができ、各種近代重工業を誘致してもビクともしない地域を右岸に造成できるのである。函館商工会議所では、すでにその設計を済ませてゐるのだ。

人類は、人類自らの手で人類を亡ぼすような愚かなものではない。したがって東西の対立も争いも幾多の経緯はあるにしても、やがては解決し、世界の平和は甦るであらう。

その晩の津軽海峡は世界の列国を結ぶ十字路となり

が、ここで函館人士は氣を挫いてはいけない。世に狂乱を既倒に廻らすという言葉があるが、いまの函館は、まさにその秋なのだ。そして函館の至宝、神代ながら天然の良港は、依然として至宝であり、その港によって函館の起死回生が可能なのである。いまの函館の港は、オハグロドブのように汚く狭く一万ト級の船舶が五、六艘もはいれば身動きもできない。港湾施設の旧式な最低の港であ

業を抱えた完備した港を造れるということとは、函館市民にとってこれほどの天恵はないと思うが、どんなものであろう。そしてそれは函館市民の一致した努力でいずれば必らず実現の可能性のあることで、成功の暁は函館が世界的に大繁栄する道なのだ。二〇世紀の残る三十余年を、一つ函館市民は、この港完成に一致協力して頑張ろうではありませんか。(函館商工会議所副会頭・第二物産代表取締役)